淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.108　2024 年 12 月発行

〈 社会人の窓 28 〉

淀川愛好会元会長道廣一利先生を偲ぶ

会長　伊藤 譲

本会元会長の道廣一利先生が 7 月 31 日に 76 歳で永眠されました。

道廣先生は1975 年４月３月に関西大学大学院修士課程を修了、同年摂南大学工学部土木工学科助手、1988 年同助教授、2000 年同教授、2004 年同都市環境システム工学科学科長、2014 年同理工学部都市環境工学科特任教授に昇任、2015 年３月退職、2015 年４月摂南大学名誉教授の称号を授与されました。

学会活動では2012 年度土木学会関西支部支部長を務められました。

道廣先生の専門は山岳トンネルの数値解析で、研究室からは多数の学生をトンネル建設や地質調査の分野に輩出しています。旧帝大の教官を彷彿させる豪快な人柄でした。

淀川愛好会では 2007 年４月から 2014 年３月までの７年間会長を務められ、その後、2014 年４月から今年お亡くなりなりになるまで、顧問をしていただいていました。

道廣先生の淀川愛好会の発展に関するご尽力について感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

（摂南大学理工学部都市環境工学科 教授）

日本水環境学会関西支部長から関西水環境社会・文化賞を受ける道廣淀川愛好会会長（2008 年 12 月 8 日）

上田伸三先生を偲ぶ

相談役　澤井健二

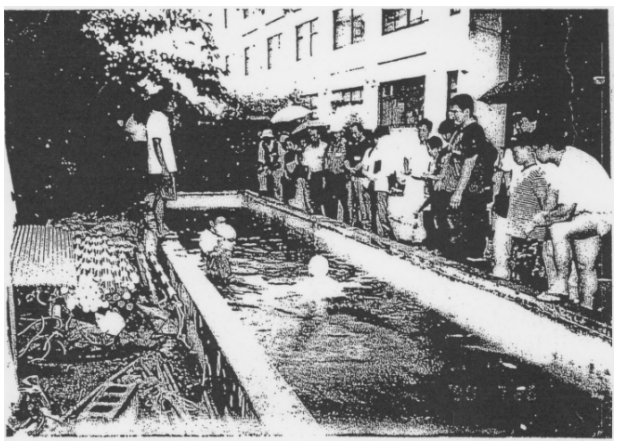
本会会員の上田伸三先生が３月 27 日に 90 歳でご逝去されました。

上田先生には、私が摂南大学に赴任する前年の 1992 年から、水理学演習と水理実験の授業を共同担当として受け持たせていただき、いろいろとご指導いただきました。当時、上田先生は大阪工業大学短期大学部の教授でおられたのですが、その前年までは、長きにわたって大阪工業高等専門学校ならびに摂南大学工学部土木工学科助教授として、多くの学生を指導されるとともに、水工学実験室の整備に尽力されていました。

私の赴任後も非常勤講師として摂南大学に来て下さっていた上田先生からのご紹介で関わらせていただいた仕事の中で、特に印象深いのは、1995 年大阪なみはや国体のカヌー競技開催に向けて、大阪高専の卒業生で当時枚方市役所におられた今堀浄氏が恩師の上田先生を訪ねて摂南大学へ相談に来られ、淀川河川公園の枚方地区でカヌー競技を行うための水流調整に関する実験を現地で行うようになったことです。そして、これが 1997 年に淀川愛好会を設立するきっかけとなりました。

上田先生はその後も常に淀川愛好会をご支援下さっていました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

（水辺に学ぶネットワーク　会長）



上田先生が愛用された摂南大学 2 号館北側の実験水槽で行われた淀川愛好会着衣泳講習（1998 年 7 月 26 日）

イベント報告

琵琶湖東岸流域見聞バスツアー

10 月 14 日（月・祝）、淀川愛好会、水辺に学ぶネットワーク、日本水防災普及センターの共催で、琵琶湖東岸流域見聞バスツアーが行われました。このツアーは、淀川流域で進められた干拓事業として最も規模の大きかった近江八幡市の大中の湖干拓地の現状を見ることと、同様に干拓地でありながら、その一部をビオトープとして復元している長浜市の早崎内湖の見学を主な目的として計画しましたが、道中で赤野井湾沿岸に立ち寄り、最近の課題について、滋賀県立大学名誉教授の秋山道雄先生から説明を受けました。

赤野井湾では、外来植物オオバナミズキンバイの繁茂が著しく、その除去に大きな努力が払われています。

大中の湖では、干拓当初は米作が中心でしたが、その後、肉用牛の生産が盛んとなり、畜舎が多数分布しています。

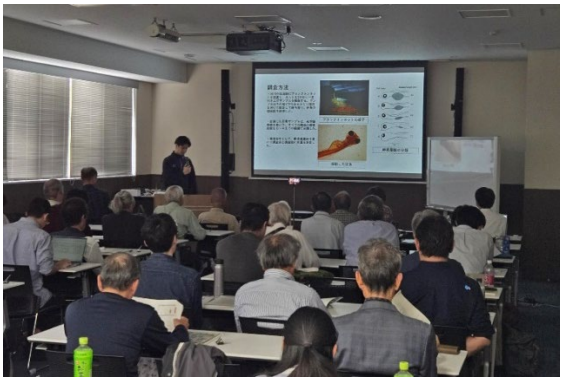
早崎内湖では、平成 13 年に北半分の北区に田んぼへの水張りが始まり、３年後にはガマやマコモなどの大きな水生植物が増えましたが、５年目には水深が落ち着き、植物は減りました。今年は、オニビシが繁殖して、水面を覆っています。南区はまだ水張りされていませんが、ガマやセイタカアワダチソウが増え、さらにヤナギが大きくなって、一部が伐採されています。（澤井 健二）

早崎内湖の様子

京の川の恵みを活かすフォーラム・食味会

10 月 27 日(日)と 11 月 4 日(月)に京都大学宇治川オープンラボラトリーにて京の川の恵みを活かすフォーラム及び食味会が行われました。27 日は様々な河川団体が集まり、発表者含め、参加者は 70 名ほどが集まりました。アユ等についての遡上状況や生息状況の報告会があり、様々な角度からアユのことを知ることができました。

翌週の 4 日には同所にて、食味会が行われました。参加者は100名ほどで淀川の天然鰻や異なる河川でとれたアユを頂きました。参加した私たちも、焼いたアユや作った料理を食べ、とても美味しかったです。（原之村 彗文）



報告会で発表している石田ゼミの田中君

アユを焼いてる様子

天若湖アートプロジェクト 2024 「あかりがつなぐ記憶」

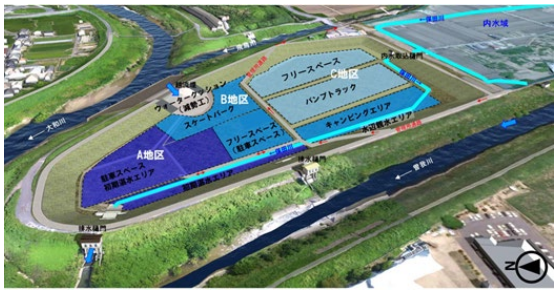
11月9日（土）から11月10日（日）にかけて京都府日吉ダム周辺にて天若湖アートプロジェクト2024「あかりがつなぐ記憶」が開催されました。

まず、天若湖アートプロジェクトとは、ダム建設により5つの村を水没させてしまったという背景を多くの人達に認識してもらうことを目的として開催しており、水没した村のことを忘れないように水没した家屋の上の湖面にあかりを灯すイベントです。今回の天若湖は人員不足の問題により、上世木と沢田と楽河の3地点でしか実施できませんでしたが、1日目は晴天で星とあかりの両方を綺麗に見ることができ、幻想的な景色を眺められ一同見惚れていました。（原之村 彗文）

湖面に浮かぶあかり

大和川流域治水見聞バスツアー

11 月 15 日（金）、淀川愛好会、水辺に学ぶネットワーク、日本水防災普及センターの共催で、大和川流域治水見聞バスツアーが行われました。このツアーは、大和川流域で現在進められている遊水地事業を見学するのが主目的でしたが、出発地の京阪電車中書島駅を出た後、枚方市にある近畿技術事務所に立ち寄り、ふれあい土木展を見学しました。ふれあい土木展では 50 余りの展示があり、参加者はそれぞれの興味に応じていくつかのブースを見て回り、最新の土木技術の一端に触れることができました。



川西町が検討中の保田遊水地利用イメージ

午後には、大和川河川事務所の方の案内で、奈良県川西町で建設中の保田（ほた）遊水地の工事現場を見学し、工事の経過を学ぶとともに、普段の遊水地の利用のあり方などについて疑問を抱きました。その後、今年の 3 月末にリニューアルされた亀の瀬地すべり歴史資料室を訪ね、地すべり対策工事について学ぶとともに、工事の過程で見つかった元国鉄関西線のトンネル内でプロジェクションマッピングを楽しみました。（澤井 健二）

クリーンリバー寝屋川作戦

幸町公園での様子

11 月 17 日(日)に今年二度目のクリーンリバー寝屋川作戦が行われました。前回に引き続き寝屋川せせらぎ公園と幸町公園の二地点で実施し、参加人数は約 100 名となり、一般参加者の人数も前回よりも多くなっており、規模が大きくなってきました。

季節は冬に差し掛かっていましたが、日差しが強く冬とは思えないほど暖かい日となりました。それぞれがスムーズに役割分担をして取り掛かったため、予定通りに作業を終えることができました。（原之村 彗文）

茨田イチョウまつり

11月24日（日）に寝屋川市茨田樋遺跡水辺公園にて茨田イチョウまつりが行われました。天気が崩れやすく、雨が降ったり止んだりしましたが開催時間には天気も落ち着き無事に開催することができ、参加人数は108名でした。

Eボート体験やどんぐり工作などのクラフト体験、堤防決壊模型実験、ねや川水辺クラブや大阪府、河川レンジャーなどの参加団体のパネル展示が行われました。

また、ぜんざいやふかし芋、銀杏の試食がありました。石田ゼミはぜんざい作りと温かい飲み物を提供しました。作ったぜんざいを参加者が美味しそうに食べる様子を見て、僕らも心が温まりました。（原之村 彗文）

イチョウまつりの会場の様子

イベント案内

淀川愛好会 総会 2025

日時：2025 年２月 22 日（土） 11 時～12 時
場所：摂南大学寝屋川キャンパス１号館３階 都市環境工学科会議室

第９回近畿河川フォーラム兼第 25 回淀川討論会

日時：2025 年２月 22 日（土） 14 時～17 時
場所：摂南大学寝屋川キャンパス３号館
内容：河川協力団体の動向
　　巨椋池干拓地におけるグリーンインフラ機能を活かした地域づくりに向けての情報共有
　　参加団体の活動紹介
参加費：無料
懇親会：17 時半より学内で立食パーティー（3000 円）
申込締め切り：２月８日
連絡先(問い合わせ先)：淀川愛好会事務局

〈 学生の窓 28 〉

私の研究

辻田　耕太郎

私は、生態学研究室（石田ゼミ）で木津川の高水敷ワンドにおける水生生物群集について研究しています。この研究も 2019 年度から始まり、早 6 年目に突入しています。今年度は、2020 年度からのデータを比較し、高水敷たまりがどのように変化してきたかをまとめ、考察します。現在、たまりの変化が顕著にみられるのは、土粒子調査です。粒径加積曲線で表してみると、2020 年度に比べて 2023 年度の土粒子が細かくなっていることがわかりました。このことから、水の流れが変化したのか、などの考察を今も進めています。また、水生生物調査のデータもこれから比較していこうと思います。

石田ゼミに入ったこの 1 年は、私の大きな成長の糧となりました。卒業研究だけでなく、様々なボランティア活動も経験し、地域に人たちとの関わる機会が多くありました。イベントの大小に関わらず、清掃活動にも多くの人が携わっており、地域を盛り上げようとする思いが伝わってきました。私も人々のために働きかけれるような社会人になりたいなと思います。そのためにはまず、卒業研究を完成させてきちんと卒業を迎えたいと思います。

玉水橋下流たまりの水生生物の写真

（摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ４年生
辻田 耕太郎）

書籍紹介

「人類はどこで間違えたのか」土とヒトの生命誌

著者：中村桂子
発行：2024 年８月 10 日
発行者：中央公論社
定価：本体 1000 円＋税

中村桂子氏は、JT 生命誌研究館館長を永く勤められ、現在は名誉館長です。

そして、生命科学の研究を通して、今から 40 億年前の細胞から始まる生命は、すべて同じ仲間として捉えるのが「生命誌」で、人間は扇の外ではなく生きものの中にいるということを共有していただきたい。また、人類はどこで間違えたのか、気候変動や格差などを生み、謙虚さを失わない生き方こそが重要で、「『私たち生きもの』の中の私」ということから考えようと言っています。

生きることは食べることで、その食を支える農耕における重要なのは土で、あいだには「百姓」がいて、有機物、水、空気が必要です。

土ということは、長い時間における日本の風土と歴史を意味し、自然の中の生きものの仲間として、もう一度、人間の立つ位置を考え、「土」すなわち「土中環境」を見つめ直す必要があると思うのです。（岡﨑 善久）

編集後記

淀川愛好会の発展に寄与されたおふたりが、お亡くなりになったことを報告することが残念です。そして素晴らしい記憶と記録を伝えるカラー写真と当時を振り返る歴史ある素晴らしい思い出の白黒写真です。

設立当時の思いをつなぎ、紡ぎ、先人たちが残した歴史をふりかえりながら我々は、伝え残さなければならないことを強く感じるのです。

また、108号という数字が、何か縁を感じる数字です。人間の煩悩の数は、108あるといわれています。108回の除夜の鐘は、その音ともに人々に安らぎと新たな決意をもたらすものです。謹んで冥福をお祈り申し上げます。

編集長 岡﨑善久（岡﨑善久建築設計事務所）

淀川愛好会事務局：〒572-8508　寝屋川市池田中町17-８　摂南大学理工学部都市環境工学科　石田研究室内
TEL/FAX：072-839-9125
HP： https://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/
E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp